

12月23日（金）2学期 終業式の話

校長先生より

児童のみなさん、おはようございます。今日は2学期最後の日、終業式を迎えました。2学期は、全部で82日間ありました。その間に、学校行事がたくさんありました。人権参観があったり、作品展があったり、低学年・中学年は遠足、高学年は宿泊行事がありましたね。また、12月の初めごろから、少しずつではありますが、給食の時間にお話しながら食べることができるようになりました。

さて、今日は終業式にあたって、サッカーのワールドカップカタール大会に係るお話をしたいと思います。令和4年11月21日（月）～12月18日（日）の約1か月間、32か国の国を代表する選手たちが、世界最高峰のサッカーのプレーをカタールという国で見せてくれました。みなさんの中にも、テレビの前で家族の人と一緒に応援した人もいないのでしょうか。

日本代表は、グループリーグを1位で通過したものの、決勝トーナメントの初戦でクロアチアという国に残念ながら負けてしまいました。最後はアルゼンチンという国の優勝で今大会の幕を閉じました。

このワールドカップの期間中、世界中の人々が1つのサッカーボールに注目して、勝つか負けるか、ハラハラドキドキしながら試合を観戦しました。決勝戦にいたっては、優勝を争うチーム同士が全力で戦い合っている中で、世界中の人々の視線が世界でたった1つの試合、たった1つのボールに集まりました。考えてみるとすごいことだなあとあらためて思います。

日本代表選手の中に長友選手という選手がいます。「ブラボー」という言葉をよく発言していたことでも有名になりました。その長友選手が日本の最後の試合の後に、こんな言葉を残しています。

「(ベスト16で負けてしまった) この悔しい「思い」は後輩たちが未来につなげてくれる」という言葉です。

日本は、1998年、今から24年前に初めてワールドカップに出場して、それから毎回4年後に行われる大会に予選を勝ち抜いて、今回で7大会連続出場しています。この24年間の間、日本はどんどん強くなっていきました。そして、海外のサッカーチームで活躍する選手も多くなりました。どうしてこんなに強くなっていったのでしょうか。

ワールドカップは4年ごとの大会なので、出場する選手はつぎつぎ入れ替わってしまうことが多いのですが、前の大会で負けた選手たちの悔しかった「思い」を次に出場する選手が受け継いで戦う。今回だけでなく、これまでも、そうした経験を何度も何度も繰り返し続けてきた結果、どんどん強くなって今回のよう

な結果につながったのではないかと校長先生は思っています。そして、今回の大会でも「思い」をつなげて結果を出し、また次の大会への「思い」は未来につなげていくことができる。そのことを日本代表の選手たちに教えてもらいました。

みなさんの「思い」はなんですか？作品展の「みんなの夢の木」に書いた「思い」はかないましたか？

もしかしたら、すぐにかなうかもしれないし、今すぐにはかなわないかもしれない。どちらにしても、その「思い」を忘れないで、心に持ち続けて未来につなげていくことができます。そして、もしかなくてない「思い」があれば、日本代表の選手のように、みなさんもあきらめなくて、粘り強くかなうまで挑戦してみようでしょうか。未来にみなさんの「思い」がかなうことが校長先生の「思い・願い」です。

それではみなさん。楽しい冬休みを過ごしてくださいね。次は、1月10日(火)の3学期始業式に会いましょう。

これで校長先生の話が終わります。